

京都府の農林水産業に係る
主な取組について

令和7年度に京都府内で発生した高病原性鳥インフルエンザについて

令和7年12月24日（水）に亀岡市の養鶏農場において、京都府内では21年ぶりとなる高病原性鳥インフルエンザが発生しました。関係機関・民間事業者・他県等からの応援職員の皆様と府職員の延べ約6,700人が24時間体制で防疫作業等に従事し、12月30日（火）に防疫措置を完了しました。

その後、令和8年1月28日（水）に監視強化区域（発生農場から10km内）が解除され、発生農場の周辺における対応は全て終了しました。

5月上旬頃までは鳥インフルエンザの流行シーズンが続きますので、引き続き、最大限の警戒を行い、他の農場での発生防止に取り組んでいきます。

○ 発生農場の概要

農場所在地： 亀岡市

飼養状況： 採卵鶏 281,786羽

○ 経過等

月 日	対 応 等
令和7年12月23日（火）	・飼養者から南丹家畜保健衛生所へ死亡羽数増加の通報 簡易検査の結果陽性を確認
12月24日（水）	・農林水産省が高病原性鳥インフルエンザ疑似患畜と決定し、防疫措置を開始（AM 9:00） ・環境省が野鳥監視重点区域（半径10km内）を指定
12月30日（火）	・防疫措置完了
令和8年1月10日（土） （防疫措置完了の翌日から10日後）	・清浄性確認検査 ¹ 及び搬出制限区域解除検査 ² で陰性を確認 ・搬出制限区域の解除（AM 9:00）
1月21日（水） （防疫措置完了の翌日から21日後）	・移動制限区域の解除（AM 9:00）
1月28日（水） （防疫措置完了の翌日から28日後）	・野鳥を含めた続発事例がないことを確認し、環境省が野鳥監視重点区域を解除（AM 0:00） ・監視強化区域解除検査 ³ で陰性を確認し、監視強化区域を解除（AM 9:00）

1) 移動制限区域内（半径3km内）の農場（該当なし）の臨床検査 2) 搬出制限区域内（半径3～10km内）の農場（2農場）の臨床検査
3) 監視強化区域内（半径10km内）の農場（2農場）の臨床検査

○ 発生に備えた体制と発生防止対策の強化

今回の迅速な防疫措置の背景には、日頃から発生に備えた体制整備などを行っていたことが大きな要因の一つであったと考えています。

京都府では、発生農場での作業を想定した防疫措置訓練や車両消毒訓練、机上演習などを関係機関と連携し、定期的実施しています。令和7年度は、これらの訓練を各地域で計39回実施しており、今回の円滑な初動対応につながりました。

今後は、4,000名を超える全庁からの動員者の管理や、防疫措置に必要な資機材の調達方法など、新たに浮かび上がった課題をとりまとめ、対応マニュアルの改訂など、より迅速かつ適切な防疫措置の実施に向けた体制整備を進めるとともに、他の農場での発生を防止するため、農場における防鳥ネットの追加や消毒機器の整備などの更なるウイルス侵入防止対策の強化に資する取組を支援します



農場での防疫措置訓練

水稻の高温・渇水対策について

令和8年3月23日

京都府農林水産部農産課

1 水稻生産を取り巻く状況

常態化する高温・渇水などの影響により、米の外観品質や食味の低下及び収量低下が顕著となっており、高温耐性品種の導入や施肥方法、病害虫防除等の高度化など高温対策技術と生産基盤の強化の必要性が高まっている。

(参考) うるち米一等米比率 R3:72.9%、R4:66.0%、R5:56.6%、R6:63.9%

2 令和7年度水稻の収量、品質向上に向けた取組

- (1) 「京式部」の収量向上と生産拡大
- (2) 高温対策実証ほ事業 (R6:42カ所、R7:40カ所、R8調整中) ※他品目含む
- (3) 営農継続支援事業
 - ア 渇水緊急対策事業 (ポンプ導入、給水車による給水支援等)
 - イ 米生産回復支援事業 (渇水被害を受けた生産者への支援)
 - ウ 高温対策機器導入支援事業 (高温対策に資する機器導入支援)

3 令和7年度高温対策実証ほの主な成果

- 「京式部」、「京の輝き」の追加穂肥による収量増加
- 「きぬむすめ」の品種特性把握と施肥方法の検討
- 高温条件下でのカメムシ類発生消長把握と防除体系の提案

4 令和8年度の取組予定

- (1) 生産者栽培研修会で高温対策実証ほの成果を技術普及 (R7秋～)
 - ① 積極的な土づくり ②追加穂肥 ③2回カメムシ防除 ④紋枯病対策
- (2) 安定生産に向けた補助事業等による支援
 - ア 気候変動適応対策事業費 (新規:ソフト支援) ※別紙参照
 - イ 高温対策実証ほの設置 (継続:ソフト支援)
 - ウ 水稻高温対策等支援事業 (継続:ハード支援)
 - エ 「京の酒」づくり緊急支援事業費
 - のうち酒米の収量・品質向上支援 (新規:ソフト支援)
 - オ 「京の米」生産イノベーション事業 (継続:ハード支援)

令和8年度当初予算案主要事項（令和7年度2月補正含む）説明

農 林 水 産 部

事業名	気候変動適応対策事業費		新規・継続の別		新規																																		
	205,925千円 (うち2月補正 93,000千円)	国庫	起債	その他	一般財源																																		
予算額		149,500	-	43,000	13,425																																		
事業内容	<p>1 趣 旨</p> <p>技術実証や基盤整備を支援するとともに、栽培技術の研究等を実施することで、気候変動に適応しながら、農林水産業者の収益向上を図る。</p> <p>2 事業概要</p> <p style="text-align: right;">(単位：千円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;">内容</th> <th style="width: 10%;">予算額</th> <th style="width: 20%;">うち 2月補正</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①稲作経営モデル確立支援事業費 C 新規</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高温・渇水にも強い経営モデル確立を図るため、産地全体で取り組む稲作の技術実証(例：節水型乾田直は)に係る経費を支援</td> <td style="text-align: center;">22,000</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>②外来生物対策推進事業費 C 新規</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>外来生物(クビアカツヤカミキリ)の防除体系の確立のため、防除の実証に係る経費を支援</td> <td style="text-align: center;">7,000</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td>③海面養殖高温対策支援事業費 D 新規</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>環境変化に対応した養殖生産のため、複合養殖の技術実証に係る経費の支援と海洋センターにおける陸上養殖技術の実証研究を実施</td> <td style="text-align: center;">25,000</td> <td style="text-align: center;">25,000</td> </tr> <tr> <td>④京都フードテック推進事業費 B 拡充 (682,770千円の内数)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>研究機関が行う高温耐性品種の育成、微生物資材を活用した栽培技術や二枚貝養殖における水深の自動調節装置等の開発</td> <td style="text-align: center;">137,500</td> <td style="text-align: center;">68,000</td> </tr> <tr> <td>⑤農林水産業基盤整備事業費 A (7,413,455千円の内数)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>高温・渇水に備えるため、農業水利施設における用水対策に係る経費を支援</td> <td style="text-align: center;">14,425</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> </tbody> </table>						内容	予算額	うち 2月補正	①稲作経営モデル確立支援事業費 C 新規			高温・渇水にも強い経営モデル確立を図るため、産地全体で取り組む稲作の技術実証(例：節水型乾田直は)に係る経費を支援	22,000	0	②外来生物対策推進事業費 C 新規			外来生物(クビアカツヤカミキリ)の防除体系の確立のため、防除の実証に係る経費を支援	7,000	0	③海面養殖高温対策支援事業費 D 新規			環境変化に対応した養殖生産のため、複合養殖の技術実証に係る経費の支援と海洋センターにおける陸上養殖技術の実証研究を実施	25,000	25,000	④京都フードテック推進事業費 B 拡充 (682,770千円の内数)			研究機関が行う高温耐性品種の育成、微生物資材を活用した栽培技術や二枚貝養殖における水深の自動調節装置等の開発	137,500	68,000	⑤農林水産業基盤整備事業費 A (7,413,455千円の内数)			高温・渇水に備えるため、農業水利施設における用水対策に係る経費を支援	14,425	0
内容	予算額	うち 2月補正																																					
①稲作経営モデル確立支援事業費 C 新規																																							
高温・渇水にも強い経営モデル確立を図るため、産地全体で取り組む稲作の技術実証(例：節水型乾田直は)に係る経費を支援	22,000	0																																					
②外来生物対策推進事業費 C 新規																																							
外来生物(クビアカツヤカミキリ)の防除体系の確立のため、防除の実証に係る経費を支援	7,000	0																																					
③海面養殖高温対策支援事業費 D 新規																																							
環境変化に対応した養殖生産のため、複合養殖の技術実証に係る経費の支援と海洋センターにおける陸上養殖技術の実証研究を実施	25,000	25,000																																					
④京都フードテック推進事業費 B 拡充 (682,770千円の内数)																																							
研究機関が行う高温耐性品種の育成、微生物資材を活用した栽培技術や二枚貝養殖における水深の自動調節装置等の開発	137,500	68,000																																					
⑤農林水産業基盤整備事業費 A (7,413,455千円の内数)																																							
高温・渇水に備えるため、農業水利施設における用水対策に係る経費を支援	14,425	0																																					
目的 対象 方法等																																							
担当課・係名	A 農村振興課	防災減災係	電話番号		075-414-5053																																		
	B 流通ブランド・戦略課	フードテック・研究推進係			075-414-4968																																		
	C 農産課	京の米・豆・保険係			075-414-4953																																		
		環境にやさしい農業推進係			075-414-4944																																		
	D 水産課	漁政企画係			075-414-4992																																		

高温対策技術の導入支援

1 R6府の支援策

	高温対策実証ほ設置事業 (ソフト対策)	高温対策支援事業 (ハード対策)
予算額	R5.2 補正 5,000 千円	R5.2 補正 235,000 千円
対象者	普及センター、農林センター	農業者又は農業者で組織する団体
補助率	—	1 / 2 以内
内 容	高温対策技術の現地実証	高温対策機器・資材の導入支援
実 績 (補助金額、件数)	5,000 千円 (実証 42 項目)	園 芸：100,643 千円 (302 件) 宇治茶：55,296 千円 (110 件) 畜 産：33,909 千円 (86 件) 小 豆：9,036 千円 (77 件)
主 取 組 内 容	栽培体系検討 (水稻等)、 施肥検討 (水稻、ナス) 品種検討 (水稻、ネギ、ミズナ等)、 水管理 (豆類等) 等	園 芸：細霧冷房、遮光資材等 宇治茶：被覆資材 畜 産：扇風機、ビタミン等 小 豆：肥料、土壌改良資材

2 R7府の支援策

	高温対策実証ほ設置事業 (ソフト対策)	高温対策支援事業 (ハード対策)	米生産回復支援事業	渇水対策支援事業
予算額	R6.2 補正 5,000 千円	R6.2 補正 188,000 千円 R7.6 補正 40,000 千円 R7.9 補正 30,000 千円	R7.9 補正 40,000 千円	R7.9 補正 20,000 千円
対象者	普及センター、農林センター	農業者又は農業者で組織する団体		水稻栽培農家等
補助率	—	1 / 2 以内		
内 容	高温対策技術の現地実証	高温対策機器・資材の導入支援	土壌改良資材の購入支援	揚水ポンプ導入・配水車リース等の支援
実 績 (補助金額、件数)	5,000 千円 (実証 39 項目)	園芸：101,079 千円 (314 件) 水稻：191,272 千円 (147 件)	9,208 千円 (55 件)	4,336 千円 (66 件)
主 取 組 内 容	栽培体系検討 (水稻等)、 施肥検討 (水稻)、 品種検討 (水稻、ネギ、ミズナ等)、 水管理 (豆類等) 等	園 芸：細霧冷房、 遮光資材等 水 稻：色彩選別機、 遠赤外線乾燥機	土壌改良資材の投入	揚水ポンプの購入、 リース等

<参考>

○令和7年度12月補正予算「農林水産業経営基盤強化緊急支援事業」(農産課分)

ソフト対策：40,000千円、ハード対策：200,000千円

※令和8年度に繰り越して執行

トリガイ養殖を取りまく環境

1 下痢性貝毒

- 令和5年度に京都府海域で初めて基準値（0.16 mg OA 等量/kg）を超える下痢性貝毒を検出。出荷自粛等の影響により、令和4年度に比べて出荷個数が半減
- 更に令和7年度には下痢性貝毒のため舞鶴湾、宮津湾では出荷を見送り。出荷個数は久美浜湾産の約5万個のみとなり過去最低（令和6年度は過去最高約30万個）

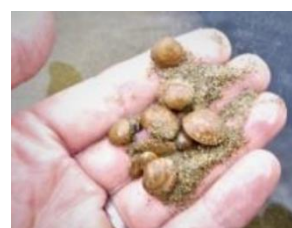
表 今年度の丹後とり貝の出荷実績

丹後とり貝産地	出荷実績	経営体数	備考	R6実績
舞鶴湾	なし	26	約10万個廃棄	25.2万個
久美浜湾	約5万個	11		3.5万個
宮津湾	なし	3	約6千個廃棄	1.1万個

2 高水温

- 近年の夏の高水温化が進み、とくに令和7年には連日30℃前後の状態が2か月近く続いた影響で、養殖漁場で育成する令和8年産トリガイ種苗の生残が大幅に低下

漁場	経営体数	配布数（個）
舞鶴湾	26	454,000
久美浜湾	11	86,500
宮津湾	3	7,000
合計	40	547,500



トリガイ種苗(1cmサイズ)

<参考>

表 京都府における丹後とり貝の出荷個数の推移(千個)

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
丹後とり貝	197	150	144	184	231	192	239	134	297	<u>50</u>